

竹取新聞

株式会社 カグヤ
東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館10階

第86版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一主義」の理念をカグヤクルーの日々の出来事からの内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

環境づくり

東京都府中市にある光明高倉保育園様にお伺いした時の事です。

園内では毎朝の朝礼で保育所保育指針の発達項目とその発達項目の解釈の仕方、それに必要な環境などが書かれている「ヒントコメント」を一日ひとつ、読み合わせるという実践を行っていることをお聞きしました。そして、先生方が日々の保育計画立てや、子どもの発達理解に役立ちやすいように、「発達項目」と「ヒントコメント」が書かれたその解説文章を一冊の小さな本にしたことで、職員さんも日々持ち歩いて活用しやすくなっているようです。「発達理解」を深めるという事は、子ども理解を深める事。「子どもに対する想い」は、「その子の発達理解」と共に深まるから、「こころ」が育つ環境を先生方に用意していく事は



園の保育実践が写真と共に各発達項目と紐づけられています。

とても大切な事なのだと感じます。

月案や保育内容を誰かが現場に指示したり、下ろしたりするのはなく、現場の先生方が臨機応変に保育を考えていける力を養える環境づくり。その自立へのプロセスは、私たちカグヤも大切にしていきたい価値観です。先生方と一緒に私たちクルーも日々学び、磨いていきたいと思えます。

磨かれていくもの

佐賀県のおへそ保育園の園長先生が先日来社下さいました。今までの無認可保育園を立ち上げ、園を磨いていく中で子どもを中心に考えていく保育はこうなっていくのではないかと、暗中模索、試行錯誤の連続だったそうですが、保育環境研究所ギビングツリーを知り、見守る保育を知る中で、「自分の思っていたものがここにあった。こういうことをしたかったんだ。」と気づかれたそうです。

それから数か月。出版されている本はすべて読み、CD化された4枚のウェブラジオを30回ほど聴き直し、今も聴き続けていらっしやいます。園長先生との会話の中でも、「ウェブラジオではこう表現されている...」などと自然と、見守る保育との繋がりを話されておき、熱い思いが伝わってきます。

4時間以上に及ぶ音声も30回も繰り返し聞かれるという姿勢。その学びに対する姿勢自体が、大きな実践であると感じます。先生の学び方は「度さらす」ことや表層理解が目的ではなく、「磨き続ける」ことに感じます。以前、ある方に「本物だから続けるのではない。続けるから本物になるのだ。」と言った言葉を頂きました。まさにその言葉を地で実践されている先生の姿に多くの学びと勇気を頂きました。

私たちクルーも「学び続けること」「磨き続けること」を大切にしていきたいと思えます。



繰り返す中で磨かれていく信念

GTサミット

8月末に『GTサミット2016』を開催致しました。全国のギビングツリー会員の園長先生など、数多くの方が集まり白熱した2日間となりました。

研修では加藤様(同志社大学赤ちゃん学術センター特任准教授)からは「赤ちゃんの『聞く』と『見る』について、藤森先生からは来年改定される保育所保育指針についての解説と改定のポイントについてお話がありました。

また、ディスプレイでは、グループごとに情報交換が行われ、誰かの悩み事を自分ごとのように、そして「自分の時はこうだったよ」という姿も見られました。

ディスプレイ後に行われたグループ発表では、司会者が発表者を指名するのではなく、参加者にお任せすると、各グループから「はい」と一斉

に手が挙がったり、グループ全員が手を挙げて「指名して!」と、言わんばかりに盛り上がりました。ディスプレイが行われているときは話を聞くのも真剣に。そして、他のグループと情報共有する時には、発表する人が緊張することがないよう、自然と話しやすい場が作られているようで、めりはりがはっきりとありました。

ある参加者の方がこの研修のことを七夕のようだとおっしゃっていました。年に一度のこの機会を楽しみ、そして次回の再会を心待ちにして、私たちも実践を積んでいきたいと思えます。



もっと話していただくほど、会場は盛り上がっていました。

CCN Caguya Company News カグヤニュース

※カグヤでは、クルー同士別々の場所においても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

子連れ研修

先日の北海道研修は、クルーの子どもたちも同行しての研修となりました。昨年の沖縄研修、そして島根研修に続き3度目となる子連れ研修でしたが、アイヌモシリ二万年祭や牧場、精神障がい者の方の地域活動拠点など、子どもたちは普段行かないような場所を見学するということで、どんなリアクションをするのだろうと気になっていました。しかし子どもはどこへ行っても常に自然体で、バツタを見つければ夢中になって捕まえますし、診療所では高校生のお兄さんとクタクタになるまで遊んでいました。宿では同年代の子とすぐに



北海道の豊かな大地には生き物も沢山!



カグヤ船に乗って大海原に出航だ!



打合せにも入っちゃうもんね。



牧場でもみんなでだんランチ♪

とすぐに友達になり…。常に楽しそうなことを感知するリーダーがついているのでしよう、さすが遊びのプロです。何より、子どもたちが両親以外のクルーやパートナーさんに対しても自然体で安心して居るのが伝わってきました。普段から社内でも一緒に玄米クッキーを作ったり、今回のように研修に同行したりと、自分の親がどんな環境でどんな人たちと仕事をしているのかを雰囲気や人柄から感じ取っているからかもしれない。そんな大人にならなりたい。そう子どもたちに思ってもらえるような社内環境を作り続けていきたいものです。

美しくなる掃除

先日、京都の鞍馬山保育園様で行われた『京都市掃除に学ぶ便きよう会』主催の活動に、園の先生方と一緒に参加させて頂きました。こちらの会では、月に1回、早朝に集まり、神社仏閣や学校などのトイレを掃除されています。

今回初めて参加させて頂いたのですが、普段は見過ぎてしまうような箇所



朝から沢山の方々が集まっておられました。



掃除でピカピカ...心も輝いていきます!

所(便器内のネジや、タイルなど)まで皆さんと一緒に丁寧に掃除していくと、アツという間に時間が過ぎていきました。つい「掃除」というと、見た目のキレイさに凸凹、部分を見過してしまいがちですが、「面倒くさがっていないか?」「簡単に『汚れが落ちない』と、あきらめていないか?」と自分自身と対話し、内面に気付け機会となり、美しくなる度に、どんどん自分の心も晴れやかになっていくのを感じました!

実際、掃除に参加された方々は、心から晴れやかな顔をされておりました。ぜひ今度は、クルーみんなを取り組んでみたいと思います!

夏季実践休暇

「生き方と働き方の一致」を目指し、夏休みもテーマを設け過ぎず「夏季実践休暇」と3年前から変わり、今年もお墓参りや親戚で集まって過ごしました。よく賑やかな時や楽しい時「盆と正月がいつぱんに来たよう」といいますが、昔の日本はお盆とお正月で一年を分け、祖霊祭を年に一回行い「感謝と祈り」を捧げていたそう…。そんな気持ちで家族とお墓参りができたからこそ、この

一期一会庵

「温故知新の精進」

先日、北海道浦河町にある「べてるの家」と「浦河ひがし町診療所」にてカグヤ理念研修を行いました。

こは1984年に設立された北海道浦河町にある精神障障等をかかえた当事者の地域活動拠点です。「べてるの家」の理念は、「三度の飯よりミーティング、安心してサボれる職場づくり、自分でつけよう自分の病気、手を動かすより口を動かせ、偏見差別大歓迎、幻聴から幻聴さんへ、場の力を信じる、弱さを絆に、べてるに染まれば商売繁盛、弱さの情報公開、公私混同大歓迎、べてるに来れば病気が出る、利益のないところを大切に、勝手に治すな自分の病気、そのまんまがいいみたい、昇る人生から降りる人生へ、苦勞を取り戻す、それで順調」というもので形成されています。そのどれもが自分たちの実体験に基づいて、当事者研究を行い形成されてきた本物の理念です。

その中でも特に深く心に残ったのは「弱さを絆」という言葉です。この施設の方々



社内でも「お盆」をテーマに室礼(しつらい)を。ご先祖様はナスの牛に荷を載せ、キュウリの馬に乗って現世に戻れるといわれています。

休暇も親戚と豊かな時を過ごせたのかも!と、ご先祖様の見守りや大きな繋がりを感じました。「夏季実践休暇」も今年で4年目。今更ながら、実践休暇やお盆、お祭りなどの意味深さを実感し、「実践継続」を大事にしたいと思います。

「弱さの情報公開」という実践を積み重ね、自分から弱さをさらけ出すことで皆と弱さを分かち合います。こは「べてるの家」では弱さは決して忌み嫌うような悪いものではなく弱さを恥ずかしながら寄せ合うことで人間の「絆」に換えました。そうやって助け合いの心と呼び覚まし、本当の人間の優しさ(強さ)に換えて自分たちの周りから社会全体を変革しています。

この弱さこそ本当は私たち人類がずっと拠所にしてきた最幸の智慧の結晶であり、本物の希望であったということ。今回の視察で教えられました。子どもたちの希望を遺していくためにも自分たちの中にある弱さを絆に換える実践を積み重ねて思いやりのある社会を弘げていきたいと思います。

編集後記

今度も竹取新聞をご覧頂きまして、誠にありがとうございました。日に日に朝晩の涼しさも、すっかり秋らしくなってきました。季節の変わり目、お身体にお気をつけてお過ごし下さいませ。

カグヤは「子ども第一主義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます。



本社
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング2号館10階
tel.03-5909-7155
fax.03-5909-7199

カグヤウェブセンター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218

フリーダイヤル 0120-917-389
URL: <http://www.caguya.co.jp>
E-mail: support@caguya.co.jp
受付時間 月~金 9:00~18:00
(土・日曜祝祭日を除く)